

日吉神社



一・御由緒

社 格 県社 大正二年七月列格

神社庁長参向神社に指定 昭和二十八年四月一日（金一八号）

御鎮座

大宮・二宮・聖真子・十禅師

弘仁八年（西暦八一七年）

客人・八王子・三宮

貞観二年（西暦八六〇年）

御由緒

当日吉神社は、桓武天皇に御信任の篤かった、聖僧傳教大師が、弘仁八年（八一七年）東通の途次、当地の大領安八太夫の招きにより留錫、僧庵にて近江国坂本（滋賀県大津市）の、日吉大権現を影向され、安八太夫と図って、大比叡、小比叡とその御配神の四柱の神を勧請し、後四十三年を経て、遺弟慈覚大師が更に三柱の神を御追斎申し上げ、所謂山王七社が揃いました。

その頃から、当地は、当社のために比叡山延暦寺の荘園となり、平野庄として永く栄えました。そして、当日吉神社も次ぎ次ぎに中七社、下七社等比叡山坂本本宮にならない、この他本来の氏神様も境内に奉遷して、永正の頃にはすべて五十六社と申し上げ、本地堂、楼門、宝庫、仏塔、八坊、十六社家等があり大いに栄えたのであります。

朝廷におかれましても、比叡山本宮と同一に御尊信あらせられ、神威益々昂揚し、嘉保年間には、源義光の兄義綱すら当社に不敬の廉をもって美濃守を免ぜられ、又藤原成親の臣が当社に不敬をなした責任を問われて、流罪に処せられたことは歴史の示すところであり、又元冠の役には、二十二社に準じて、鐘を鑄てその拒止を祈らせられました。

文明五年（一四七三年）に至り、平野庄は比叡山領から、齋藤妙椿の手に移りましたが、妙椿は三重塔を改築したり、その他多くが奉獻を致しまして奉仕を怠らず、神威は益々輝きました。享禄二年（一五二九年）の揖斐川大洪水のため平野庄は東西に分断され、その後天正年間に至る四十余年の間に数回にわたる大洪水、暴風の難に遭い大被害を受け、不破河内守（狛犬奉獻）「稲葉一徹（三重塔改築）等の奉仕も往時の御盛運に比へては物の数にもならず、御衰運の一途を辿りました。しかし乍ら日吉本宮のように兵火の難を受けることもなく、豊臣秀吉の時には御朱印を賜わる等の庇護を受け、徳川家康は関ヶ原の役に当社の御霊験を受け、元和に至りまして遺命により三代將軍家光は、天海僧正に命じて代参せしめ、御神鏡をはじめ多くの奉賽に誠を捧げ、徳川義直公の尾張領として維新に至るまでの二百数十年間奉仕に励まれ、御本殿の改築各社殿の御修築、燈明他の寄進、奉行の祭典奉仕等尾張領内の大社として名実共に重きをなし、殊に貞享三年（一六八六年）には、輪王寺宮様の御綸旨により、坂本日吉本宮の御神躰の祖とならせられ、翌貞享四年には氏子の者も感激して神輿七社を御改造申し上げ祭典も昔の盛儀にかえり、尾州公の御尊信も一層深く延享元年（一七四四年）に至り、二百七十両の大金を献上致しました。又明治二十二年には古社寺保存資金の下賜を受け、氏子の熱誠により、大正二年県社に昇格されました。

このように、当日吉神社は御霊験著しく、一般氏子崇敬の誠心はまことに厚くその後第二次世界大戦敗戦の痛手にも屈せず、昭和二十三年巨額の御修繕費を抛金し三重塔の解体修理を完成、その他境内の修築を完了し、戦時中中断していた祭典を復興し、翌二十四年には地方出身の戦死軍人のため本境内に招魂社を創建し、戦病死者の霊を奉斎しました。又昭和三十三年には金幣社となりました。

二. 御祭神

山王二十一社

上七社

大宮

二宮

宇佐宮（聖真子）

樹下宮（十禪師）

客人宮

牛尾宮（八王子）

三宮

中七社

大物忌神社（大行事）

牛御子

新物忌神社（新行事）

下八王子

早尾

王子

下七社

聖女

小禪師

大宮竈殿

二宮竈殿

山末

巖瀧

劍宮

氣比

大己貴神

大山咋神

湍津姫神

鴨玉依姫神

白山姫神

大山咋神荒神

鴨玉依姫荒神

大年神

山末之大主神荒魂

天知迦流水姫神

五男三女神

素盞鳴神

鴨別雷神

下照姫宮

玉依彦神

奥津彦神・奥津姫神

奥津彦神・奥津姫神

鴨建角身命・琴御館宇志磨

市杵島姫命・湍津島姫命

瓊々杵命

仲哀天皇

三． 祭事

その他の主な御祭神

神明社
多度社
白鳥社

豊受姫神
天津彦根命
日本武尊

月日

一月一日
一月十五日

祭事

歳旦祭

左義長

交通安全祈願祭

厄除・長寿・合格祈願祭

祈年祭

招魂社例祭

例大祭（山王まつり）

夏越の大祓

虫送り

早尾神社例祭

牛尾宮例祭

七五三

新嘗祭

神宮大麻・日吉神符頒布式

一月下旬の日曜日

二月十七日

三月中旬

五月三・四日

六月三十日

七月初旬

七月十六日

九月二十三日

十一月十五日

十一月二十三日

十一月下旬の日曜日

四. 日吉神社略年表

弘仁八年（八一七）

御鎮座 大宮 傳教大師御勸請（善学院内）

二宮 同 右

聖真子（宇佐宮） 同 右

十禪師（樹下宮） 同 右

貞観二年（八六〇）

御鎮座 客人 慈覚大師御勸請（善学院内）

八王子（牛尾宮） 同 右

三宮 同 右

延久三年（一〇七一）

高塚（現在の上之宮一番地）に奉遷

四月申の日に、近江国坂本の本宮の吉例に準じて神輿渡御が始まる

建久元年（一一九〇）

源頼朝が社領五〇〇石と神輿七基を奉納

文明五年（一四七三）

平野庄が比叡山領から斎藤妙椿の領地に移る

永正年間（一五〇四～一五二一）

斎藤伊豆守利綱が三重の塔を建立

この頃迄に境内には五十六社、本地堂、楼門、宝庫、仏塔、八坊、十六社家等が構築される

享禄二年（一五二九）

杭瀬川が大洪水して流れが変わり揖斐川として現在地を流れる

元龜二年（一五七一）

織田信長が比叡山を焼き討ちし日吉大社消失

天正五年（一五七七）

不破河内守光治が石像狛犬一對を寄進

天正十三年（一五八五）

稲葉伊予守一鐵が三重の塔を修造

元和五年（一六一九）

慈眼大師（天海大僧正）が参詣

神戸村が尾張藩領に編入される

寛永三年（一六二六）

藤田民部少輔が八王子社（牛尾宮）を上葺

寛永七年（一六三〇）

尾張藩主徳川義直公が大宮本殿を再建寄進

藤田民部少輔が二宮・八王子社（牛尾宮）を修復
三代將軍徳川家光公が神鏡を寄進

正保二年（一六四五）
明暦三年（一六五七）
延宝五年（一六七七）
天和三年（一六八三）
貞享元年（一六八四）
貞享四年（一六八七）

元禄四年（一六九一）
元禄十年（一六九七）
宝永三年（一七〇六）
宝永五年（一七〇八）

享保年間（一七一六～一七三六）
享保九～十六年（一七二四～一七三一）

享保十年（一七二五）
享保十一年（一七二六）

浄法坊転退し社僧七坊となる

八王子社（牛尾宮）を上葺

尾張大納言が八王子社（牛尾宮）を修理、

御旅所を再建、聖真子宮（宇佐宮）・十禅師社（樹下宮）を修復

拜殿上葺

山王社古絵図が描かれる

山王七社のご神体を坂本の本宮が複写彫刻

神輿七基造立

大宮大権現神輿 施主 安次・丈六道・田・東本庄

二宮大権現神輿 施主 田代七郎兵衛

聖真子大権現神輿 施主 上新町・下新町

十禅師大権現神輿 施主 高橋惣太夫・高橋惣五郎・高橋惣治郎

客人大権現神輿 施主 本町・横町・馬場・垣外

八王子大権現神輿 施主 新井松兵衛

三宮大権現神輿 施主 伊田・三津屋・福井

「日吉山王権現御祭之次第」を制定

例大祭日を四月申の日とする

尾張大納言が八王子社（牛尾宮）を修理

三重の塔・神輿殿・御供所を修復

十輪院転退し社僧六坊となる

大宮・客人宮・八王子社（牛尾宮）・天王社・拜殿を建て直す

三重の塔を葺き直し

山王川を庄九郎川に改称

大宮を修復、以後享保十六年迄に二宮・聖真子社（宇佐宮）・

客人宮・大行事宮・牛御子社・劔宮・神明社・天王社・白鳥社・

他土宮・三重の塔を修復

拜殿を改造

十禅師社（樹下宮）を改造

延享二年（一七四五）
延享三年（一七四六）

延享四年（一七四七）

寛延二年（一七四九）

宝曆三年（一七五三）

宝曆四年（一七五四）

宝曆九年（一七五九）

宝曆十年（一七六〇）

宝曆十一年（一七六一）

宝曆十二年（一七六二）

明和二年（一七六五）

明和三年（一七六六）

安永三年（一七七四）

天明八年（一七八八）

寛政元年（一七八九）

寛政四年（一七九二）

享和二年（一八〇二）

文化二年（一八〇五）

文政五年（一八二二）

八王子社（牛尾宮）を上葺修復

二宮・十禅師社（樹下宮）・客人宮を上葺修復

三宮・惣門を造立

聖真子社（宇佐宮）を新造

大宮を上葺修復

十禅師社（樹下宮）を上葺修復

二宮を上葺修復

神輿庫を造立

客人宮を造立

尾張藩主徳川宗睦が八王子社（牛尾宮）・三宮を上葺修復

三重の塔を上葺

聖真子社（宇佐宮）を上葺

大宮を上葺修復

客人宮を補葺

大宮内陣を修復

八王子社（牛尾宮）を上葺修復

十禅師社（樹下宮）・客人宮を上葺

三宮を造営、三重の塔を上葺修復

八王子社（牛尾宮）を上葺修復

尾張藩主徳川宗睦が二宮を上葺修復

山王社一千年祭を執行

七社神輿の修復

山王社大石燈明を唐崎神社北側に造立

山王社石燈明一对を境内に建立（大坂 八箇屋新兵衛）

五社石垣懸を造立

大宮裏通りを整備

大宮本殿の水引・内敷・御簾を新調

大宮幕を制作

文政六年（一八二三）
 嘉永二年（一八四九）
 嘉永四年（一八五一）
 嘉永六年（一八五三）
 慶応二年（一八六六）
 明治元年（一八六八）
 明治二年（一八六九）
 明治四年（一八七一）
 明治五年（一八七二）
 明治十一年（一八七八）
 明治十四年（一八八一）
 明治二十二年（一八八九）
 明治二十四年（一八九一）
 明治二十八年（一八九五）
 明治四十一年（一九〇八）
 明治四十二年（一九〇九）
 大正元年（一九一二）
 大正二年（一九一三）

大正三年（一九一四）

八王子社（牛尾宮）を上葺修復
 大宮を上葺修復
 二宮を上葺修復
 八王子社（牛尾宮）を上葺
 大宮を葺替え
 村社に社格決定
 神仏分離令により本地堂及び社僧を取り壊し
 仏画六軸を横蔵寺へ売却
 大宮を葺替え
 祭礼式を改定
 例大祭日を四月十三・十四日に固定
 牛尾宮を葺替え
 三重塔修復
 古社寺保存資金の下賜を受ける
 二宮を上葺修復
 大宮を葺替え
 帝室林野管理局（皇室）所有の山林三筆・三反四畝十二歩の払い下げを受ける
 二宮を改築
 三重の塔を葺替え
 県社に昇格
 「縣社日吉神社」の石柱を惣門東に建立
 県社昇格記念碑が建てられる
 石鳥居を庄九郎川南に建立（完成大正三年）（日下部庄吉氏寄附）
 社殿・三重の塔・御手洗に玉垣を造営
 三猿像が高垣に造られる
 帝室林野管理局払い下げの山林に庭園が造られる
 三重の塔が国重要建造物文化財に指定される

大正八年（一九一九）
大正九年（一九二〇）
大正十三年（一九二四）

大正十五年（一九二六）
昭和十一年（一九三六）
昭和十二年（一九三七）
昭和二十三年（一九四八）
昭和二十四年（一九四九）
昭和二十五年（一九五〇）
昭和三十三年（一九五八）
昭和三十四年（一九五九）
昭和三十五年（一九六〇）
昭和三十六年（一九六一）
昭和三十七年（一九六二）
昭和四十二年（一九六七）

昭和五十三年（一九七八）
昭和五十五年（一九八〇）

昭和六十一年（一九八六）
昭和六十三年（一九八八）
平成元年（一九八九）
平成二年（一九九〇）

木造地藏菩薩坐像が国重要彫刻物文化財に指定される
木造十一面観音坐像二体が国重要彫刻物文化財に指定される
石造狛犬一対が国重要彫刻物文化財に指定される

大宮縁廻り高欄・軒廻り修復
大宮を葺替え

昭和天皇ご成婚記念事業として猿舎が造られる（太平洋戦争中に取り壊される）

二宮・惣門を朱塗り
百八灯明台を修復

東郷元帥が石鳥居の神額文字を謹書（神額は日下部庄吉氏寄附）
三重の塔を解体修理

境内に招魂社を創建
大宮を葺替え

大宮本殿附棟札が岐阜県重要建造物文化財に指定される
大宮を修復（伊勢湾台風被災）

社務所を建替え
神輿及び百八灯明台が岐阜県重要民俗資料に指定される

三重の塔屋根を補修
創建千五百拾年年祭・明治百年祭執行

・社務所前国旗掲揚塔設置
・参道石燈籠建立

神戸山王まつりが岐阜県無形民俗文化財に指定される
横町区・樹下宮神輿修復（大神輿・中神輿・神輿道具他）

総修理費 九百九十九万七千六百六十二円
大宮本殿解体修理

ぎふ中部未来博覧会に大神輿展示。
客人宮神輿修復 総修理額 一千四百万円
神輿殿を改修して幣殿を増設

平成三年（一九九一）

平成五年（一九九三）

平成五〇六年（一九九三〇一九九四）

平成六年（一九九四）

平成七年（一九九五）

平成十三年（二〇〇一）

平成十五年（二〇〇三）

平成十六年（二〇〇四）

平成十七年（二〇〇五）

平成二十年（二〇〇八）

平成二十二年（二〇一〇）

平成二十二〇二十三年

（二〇一〇〇二〇一）

御旅所を建替え

十一面観世音菩薩像・地藏菩薩像を滋賀県立琵琶湖文化館にて展示

滋賀県立琵琶湖文化館開館三十周年記念特別展

日吉山王権現——神と仏の美術——

樹下宮・客人宮の屋根を葺替え

収蔵庫を修理

三重の塔屋根を葺替え

惣門を嵩上げ修理

祭礼式を改定

例大祭日を五月三・四日に変更

舞殿・神饌所を取り壊し授与所・神饌所として建て替え

招魂社を修復

火祭りの庭・石舞台の庭を修景事業として整備

二宮大神輿修復 第一期事業（茜障子、水引 復元新調）

一期事業費 一千七百二十七万二千五百円

御手洗を改築・旧御手洗を移設

二宮大神輿修復 第二期事業（大神輿・小神輿本体修復）

二期事業費 一千九百六十八万五千円

二宮を塗替え

各社殿の祭神・ご利益の立て札を設置

大宮大神輿平成修理開始（平成二十年まで）

総修理額 二千九百三十二万一千円

神輿殿傾斜防止の鋼製支柱を付設

三重の塔を修復（落雷損傷）

十一面観世音菩薩像を白洲正子生誕百年特別展に展示

滋賀県立近代美術館 十月〇十一月

愛媛県美術館 一月〇三月

東京都世田谷美術館 三月〇五月

平成二十五年（二〇一三）

平成二十六年（二〇一四）

平成二十七年（二〇一五）

平成二十八年（二〇一六）

平成二十九年（二〇一七）

牛尾宮神輿修復（大神輿・中神輿 漆加工・金具金鍍金加工）
総修理額 二千万円

惣門を修復

幣殿・拝殿（神輿殿）を建替え

境内に監視カメラ設置

日吉児童公園からの入口に鳥居（東門）建立

井田からの入口に鳥居（西門）建立

大宮本殿丹塗り修復

社務所を建替え

祓戸社を建替え

日吉神社御鎮座千二百年祭執行